

ミュージアムコラム

武庫川女子大学附属総合ミュージアムでは、所蔵する国の登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」全 9,092 点から季節の主題に沿った資料を選び、一年を通じて学術研究交流館（IR 館）1 階ロビーにて展示をおこなっています。

2024 年度冬季企画

雪の文様—雪輪と雪華

2024 年 12 月 20 日（金）～ 2025 年 3 月 14 日（金）

日本で雪の文様が登場したのは室町時代頃からと言われています。雪が降り積もった情景を表した「雪景文」、植物に雪が被る様子を表した「雪持ち文」などがその例です。

そして江戸時代初期には、雪持ちの雪を独立させて意匠化した「雪輪文」が誕生しました。中国・宋代以前において、雪は 6 つの花弁（六花）からなると考えられていたため、日本で雪を図案化した際、凹凸で 6 弁を表した丸い花の文様となりました。雪の結晶を別名で「雪華」と言いますが、江戸時代後期に『雪華図説』が刊行されると、その影響を受けて様々なデザインの「雪華文」が表現されるようになりました。

今回展示した資料には、さり気ない部分に雪輪や雪華の文様が施されていたり、雪輪取りされた文様の中に目を見張るものがあつたりと、丹念にご覧いただくと面白い発見が沢山あると思います。ゆっくりとご鑑賞ください。
（平）



1. 白錦雪輪御所解文丸帯 （昭和戦前期）
2. 雪輪松皮菱と蜀江文名古屋帯 （昭和戦後期）



1は御所解文様の上に、5種の雪輪文様が施された錦織の丸帯。雪輪の中には、「菊水」、「籬に紅葉」、「貝桶に菊」、「桜」、「竹と椿」の文様が表されている。「籬に紅葉」と「桜」の背景に、菱形が内側に連続する「入子菱」が見える。

2は黒の松皮菱に雪輪文を配した名古屋帯。雪輪の中には、七宝繫ぎに唐花を組み込んだ、「唐花七宝繫ぎ文」が表されている。八角形と四角形の連続文様で構成された蜀江文には、前者に「龍唐草丸」と「鳳凰唐草丸」、後者に花菱文が施され、優美である。



3. 歌舞伎絵『忠臣蔵』散らしモスリン裂（大正期～昭和初期）

4. 孔雀羽に雪輪と雪華散らしモスリン裂（大正期～昭和初期）

3 には、赤穂事件を題材にした『忠臣蔵』のうち、浅野内匠頭による吉良上野介の刃傷場面、大石内蔵助の遊蕩場面、赤穂義士の夜討ち場面が配される。控えめに表された雪輪文には、浅野家の「丸に違い鷹の羽」紋付き提灯が見える。この他、吉良家の「丸に二つ引き」紋付き旗と吉良邸らしき城が、兜を背に表されている。



4は孔雀の飾り羽が描かれた 3 枚重ねの四角い色紙と、白抜きで散らされた雪華と雪輪の組み合わせが愛らしいデザイン。鮮やかな朱色地であることから、少女用の裂と想像される。飾り羽のハートを重ねたような目玉模様は、アール・ヌーボー由来の意匠で、大正時代より和服にも取り入れられ、人気を博した。



5. 流水に雪華とねじ梅文散らし長襦袢（昭和初期）



大胆に白抜きされた流水文の周囲に、一目絞り風のねじ梅と雪華が散らされ、華やかな印象を与える。

昭和初期には、下着である長襦袢にも派手な色柄が好まれ、目立たない部分にこだわる美意識が見え隠れする。桜の花びらと傘の刺繍入りの半襟、背紐も縫い付けられている。

次回の展示は 2025 年 4 月を予定しています。